

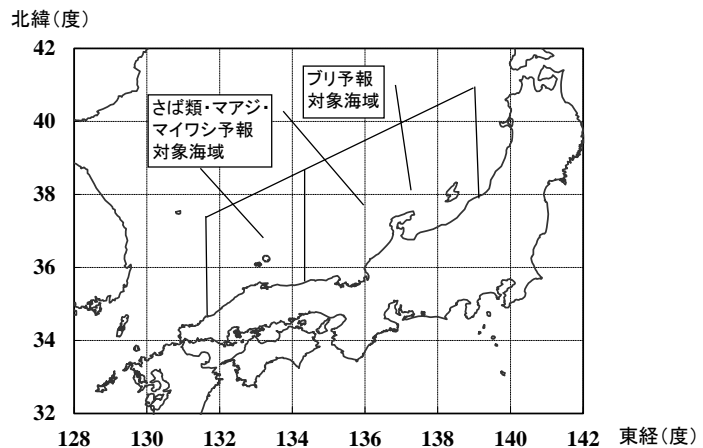
平成27年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成27年11月～平成28年3月)のポイント

漁況(来遊量)

- (1) さば類(島根県～新潟県)
前年並み
- (2) マアジ(島根県～新潟県)
前年を下回る
- (3) マイワシ(島根県～新潟県)
前年を上回る
- (4) ブリ(兵庫県～新潟県)
0歳魚は前年を下回る
1歳魚は前年を下回る
2歳以上魚は前年を上回る



※「前年」は平成26年11月～平成27年3月を示す。

問い合わせ先

国立研究開発法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所

担当：檜山、江連

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0850

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/>

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

平成27年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

今後の見通し（2015年11月～2016年3月）

1. さば類（島根県～新潟県）
0歳魚（2015年級）と1歳魚（2014年級）が主体、来遊量は前年並み
2. マアジ（島根県～新潟県）
1歳魚（2014年級）が中心、来遊量は前年を下回る
3. マイワシ（島根県～新潟県）
0歳魚（2015年級）と2歳魚（2013年級）が主体、来遊量は前年を上回る
4. ブリ（兵庫県～新潟県）
0歳魚（2015年級）：前年を下回る
1歳魚（2014年級）：前年を下回る
2歳以上魚（2013以前年級）：前年を上回る

※「前年」は2014年11月～2015年3月を示す。

I 予報の説明

漁況の経過（2015年1月～9月）および今後の見通し

1. さば類（図1、図2）

●2015年1月～9月の経過

日本海で漁獲されるさば類は、東シナ海と日本海の間を回遊する対馬暖流系資源の一部である。日本海主要港（島根県～新潟県）におけるさば類の漁獲量は、ここ10年間では2008年～2009年と2011年～2012年、そして2014年に多く、2010年と2013年に少なかった。2015年1月～9月における漁獲量は16,000トンで、前年同期（21,100トン）を下回ったものの過去5年平均（14,100トン）を上回った。

府県別では、全体に占める割合が大きい鳥取県および島根県（まき網）の漁獲量は、1月は過去5年平均を、下回ったものの、2月～4月は大きく上回った。中部以北におけるまき網（主体は石川県と新潟県）の漁獲量は3月にやや増加したものの、その他の月は少なかった。兵庫県以北の定置網の漁獲量も2月～3月にかけて、前年を下回ったものの、一昨年より多かったが、4月以降は過去2年間と同様の漁獲動向であった。

●資源状態と年級の豊度

「平成27年度 第1回 対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁況予報」（西海区水産研究所）によると、対馬暖流系マサバ資源の年級毎の豊度は、2013年級は2012年級より低く、2014年級は2013年級より高いと考えられている。なお、2015年級は2014年級程度と考えられている。

●今後の見通しについて

例年、日本海の漁獲量については、西部海域のまき網の占める割合が大きく、11月～3月には0歳魚と1歳魚が漁獲の主体となる。0歳魚（2015年級）、1歳魚（2014年級）、2歳魚（2013年級）ともに豊度は前年並みと考えられるため、予報期間における来遊量は前年並みと予想される。

2. マアジ（図3～図5）

●2015年1月～9月の経過

2001年～2014年における島根県～新潟県の主要港の漁獲量は31,400～67,700トンであった。2012年（31,500トン）および2013年（37,500トン）の漁獲量は4万トンを下回ったが、2014年の漁獲量は5年ぶりに4万トンを超えた（42,200トン）。2015年1月～9月の漁獲量は25,500トンであり、前年同期（33,600トン）を下回り、2012年（25,000トン）並みであった。

●資源状態と年級の豊度

日本海で漁獲されるマアジは対馬暖流系資源の一部である。対馬暖流系群における2013年級(2歳魚)の豊度は2012年級(3歳魚)と同程度、2014年級(1歳魚)の豊度は2013年級(2歳魚)を上回ると判断されている。また、2015年級(0歳魚)は2014年級を下回ると考えられている。また、5月～7月に日本海西部海域で実施したマアジの新規加入量調査の結果では、マアジの加入量指数(来遊量の多さ)は、来遊量の多かった2003年を1とすると、2015年は0.34であり、過去最高値であった2014年(3.03)を大きく下回った。

●今後の見通しについて

予報期間(11月～3月)における日本海の漁獲量は、例年、0歳魚と1歳魚が主体で、2歳以上魚も漁獲される。対馬暖流系群の0歳魚(2015年級)の豊度は前年より低いと評価されていることに加え、2015年の新規加入量調査による加入量指数も低い値であった。そのため、2015年の0歳魚の来遊量は前年を下回ると予想される。一方、1歳魚(2014年級)の豊度は前年を上回り、2歳魚(2013年級)の豊度は前年と同程度と考えられるものの、2015年1月～9月の漁獲量が前年を下回った。以上のことから、予報対象期間における来遊量は全体として、前年を下回ると予想される。

3. マイワシ(図6、図7)

●2015年1月～9月の経過

日本海におけるマイワシの漁獲量は2010年までゆるやかに増加傾向を示していたが、2011年に急増し30,000トンを超えた。2012年はやや減少したものの、2013年には2011年の倍近い約59,000トンとなった。しかし、2014年は一年を通して極めて低い水準で推移した。2015年の漁獲量は2014年を上回って経過しており、2月～4月に石川県と富山県の定置網で増加し、4月以降は鳥取県、さらに5月以降は石川県のまき網で増加した。

●資源状態と年級の豊度

2014年級の豊度は2013年級を下回り、2015年級は漁況の推移から2014年級を上回ると考えられる。

●今後の見通しについて

例年、11月～3月には0歳魚が漁獲の主体となり、1歳魚以上も漁獲される。2015年1月～9月の漁獲量が前年を上回っていることから、2015年級の豊度は2014年級より高いと考えられる。また、来年1月以降、近年では比較的豊度の高い2歳魚(2013年級)も漁獲に加わると予想されることから、予報期間における来遊量は前年を上回ると予想される。

4. ブリ(図8～図10)

●2015年1月～9月の経過

2000年～2010年における兵庫県～新潟県の主要定置網の漁獲量は4,900～8,600トンであったが、2011年は12,100トンとなり、2000年以降では最高となった。2012年は7,700トンに減少したが、2014年は再び1万トンを超えた(10,900トン)。2015年1月～9月における漁獲量は8,200トンで、前年同期(8,500トン)とほぼ同様であり、過去5年(2010～2014年)平均(6,100トン)を上回った。

年齢別の漁況経過をみると、0歳魚の漁獲量(7月～9月)は590トンで、同期間における前年(1,070トン)および過去5年平均(920トン)を下回った。1歳魚の漁獲量(1月～9月)は4,800トンで、前年同期における漁獲量(5,300トン)を下回ったものの、過去5年平均(2,800トン)を上回った。2歳以上魚(1月～9月)の漁獲量は1,600トンで、前年同期の漁獲量(1,300トン)を上回ったものの、過去5年平均(1,900トン)を下回った。

●資源状態と年級の豊度および今後の見通しについて

2015年級である7月～9月の0歳魚の漁獲量は前年を下回ったことから、11月～3月の0歳魚の来遊量は前年を下回ると予測される。

1歳魚は1～9月の漁獲量が前年を下回ったことから、11月～3月の来遊量は過去5年平均を上回るものの、来遊量の多かった前年を下回ると予測される。

2歳以上魚(2013年級以上)の1～9月の漁獲量は前年を上回ったことから、11月～3月の2歳以上魚(2013年級以上)の来遊量は過去5年平均を下回るものの、前年を上回ると予測される。

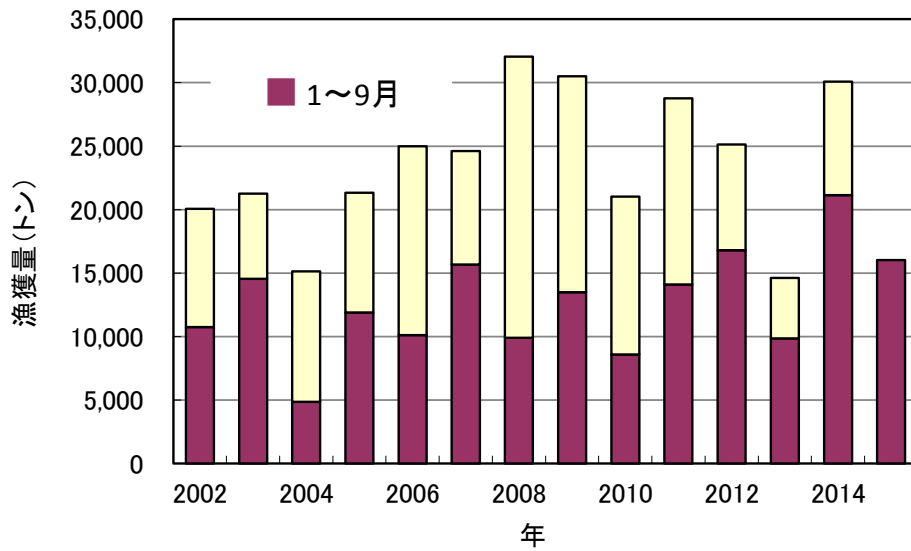


図1 さば類の漁獲量の経年変化
(年計、■は1月～9月まで；島根県～新潟県、2015年は9月まで)

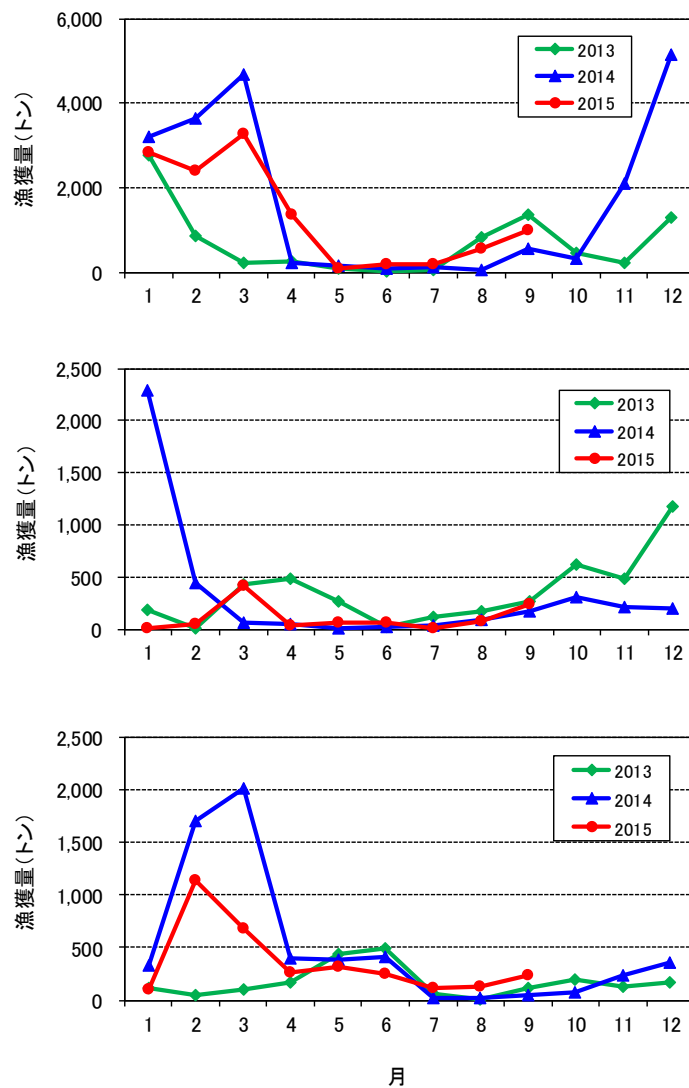


図2 さば類の月別漁獲量の推移 (2013年～2015年、2015年は9月まで)
 上：島根県～鳥取県 (まき網)
 中：兵庫県～新潟県 (まき網：定置網以外を集計)
 下：兵庫県～新潟県 (定置網)

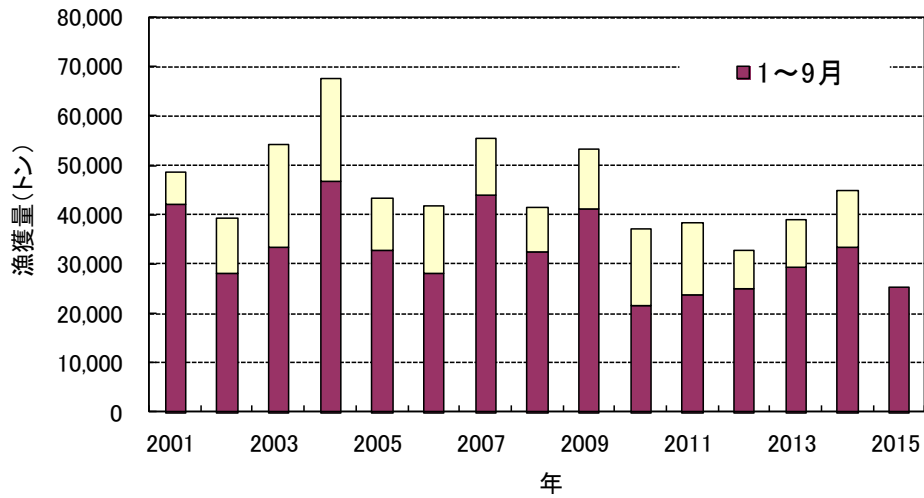


図3 マアジの漁獲量の経年変化
(年計、■は1月～9月まで；島根県～新潟県、2015年は9月まで)

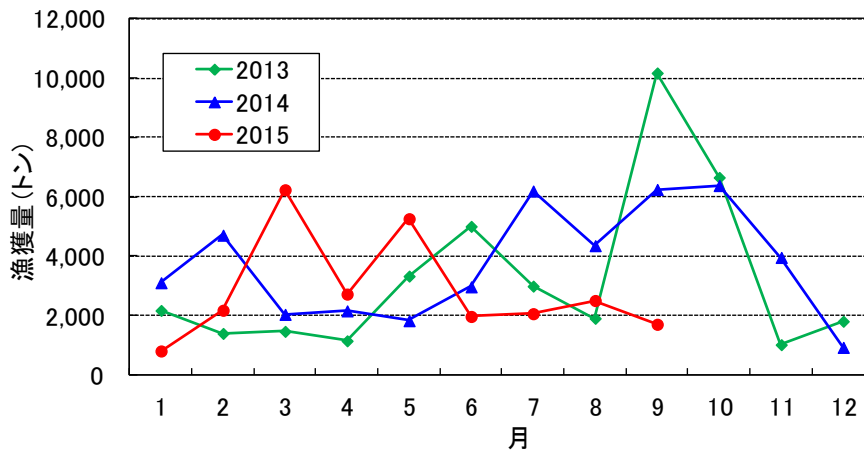


図4 マアジの月別漁獲量の推移
(島根県～新潟県、2013年～2015年、2015年は9月まで)

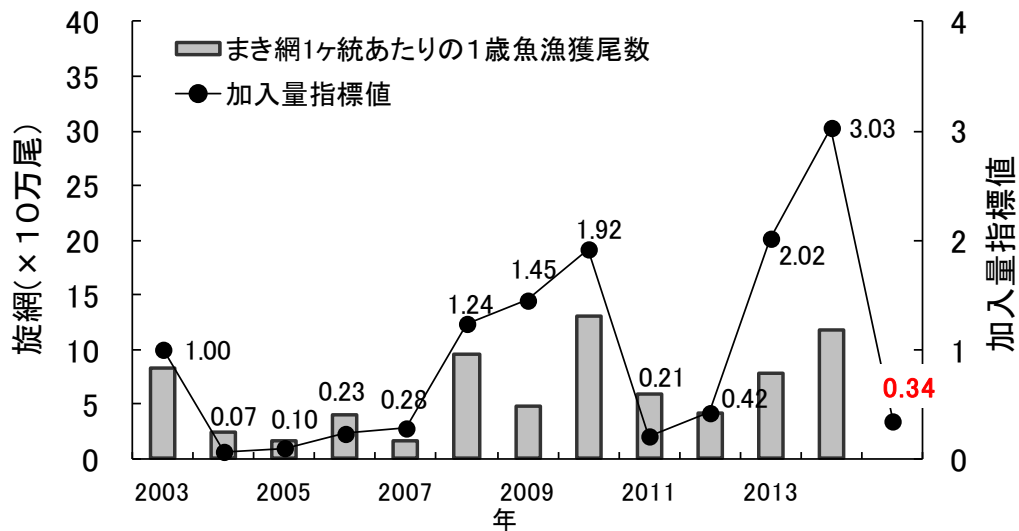


図5 新規加入量調査によるマアジ加入量指数（2003年を1とした）とまき網1ヶ統あたりの0歳魚漁獲尾数の経年変化

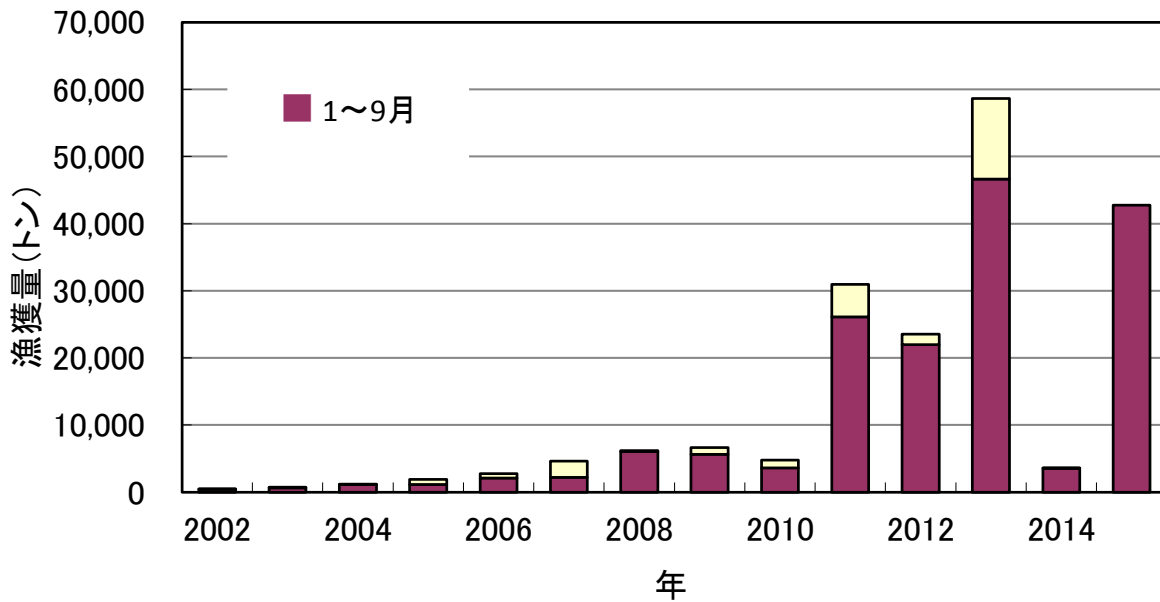


図6 マイワシの漁獲量の経年変化
 (年計、■は1月~9月まで；島根県~新潟県、2015年は9月まで)

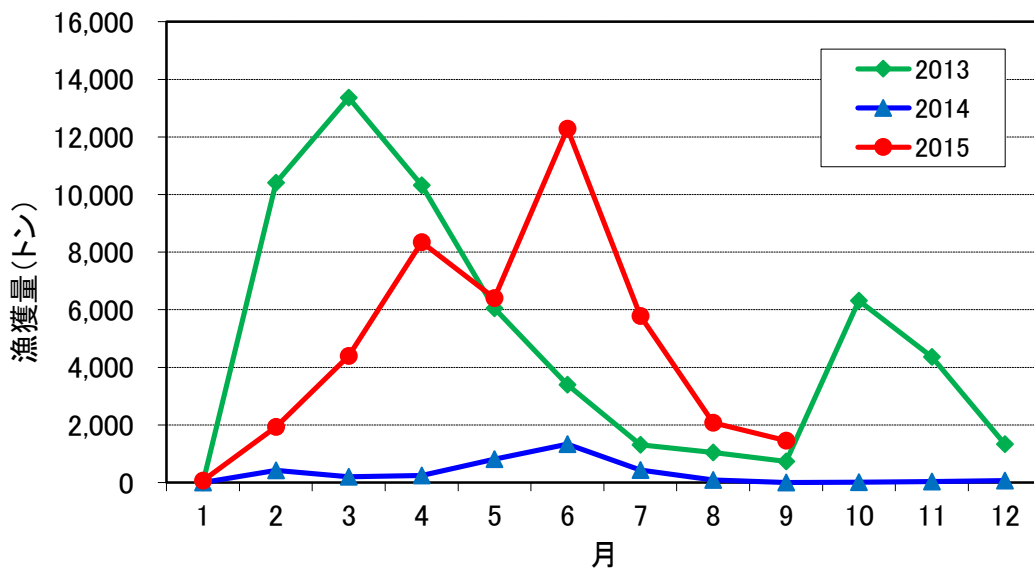


図7 マイワシの月別漁獲量の推移
 (島根県~新潟県、2013年~2015年、2015年は9月まで)

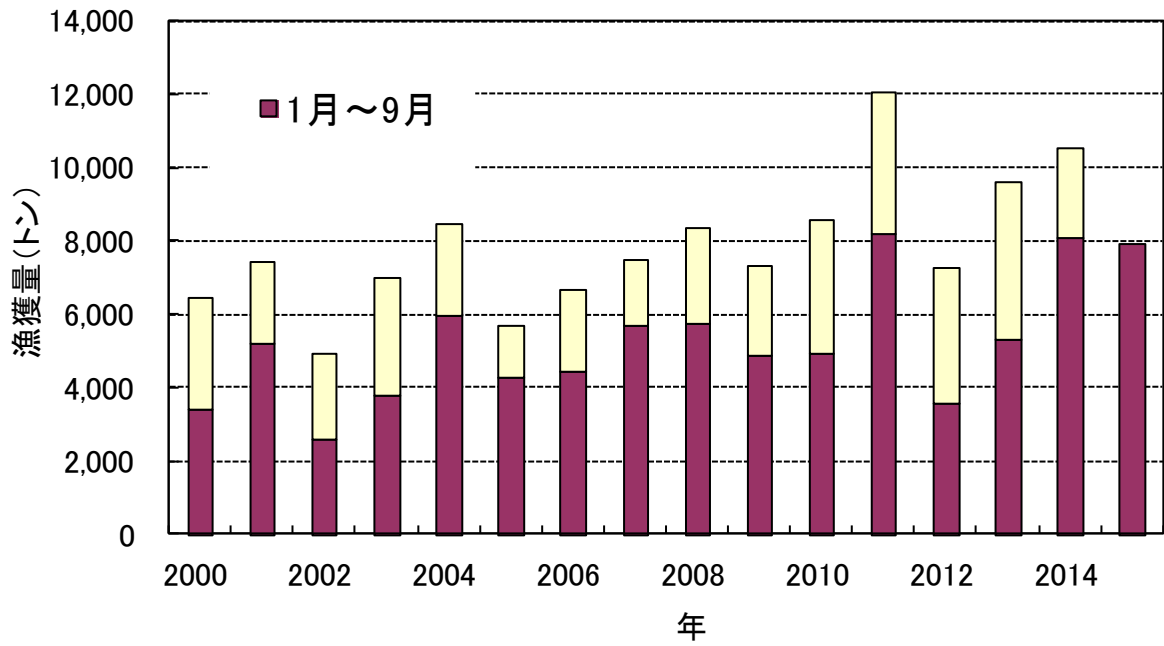


図8 兵庫県～新潟県におけるブリの定置網漁獲量の経年変化
(年計、■は1月～9月まで；2015年は9月まで)

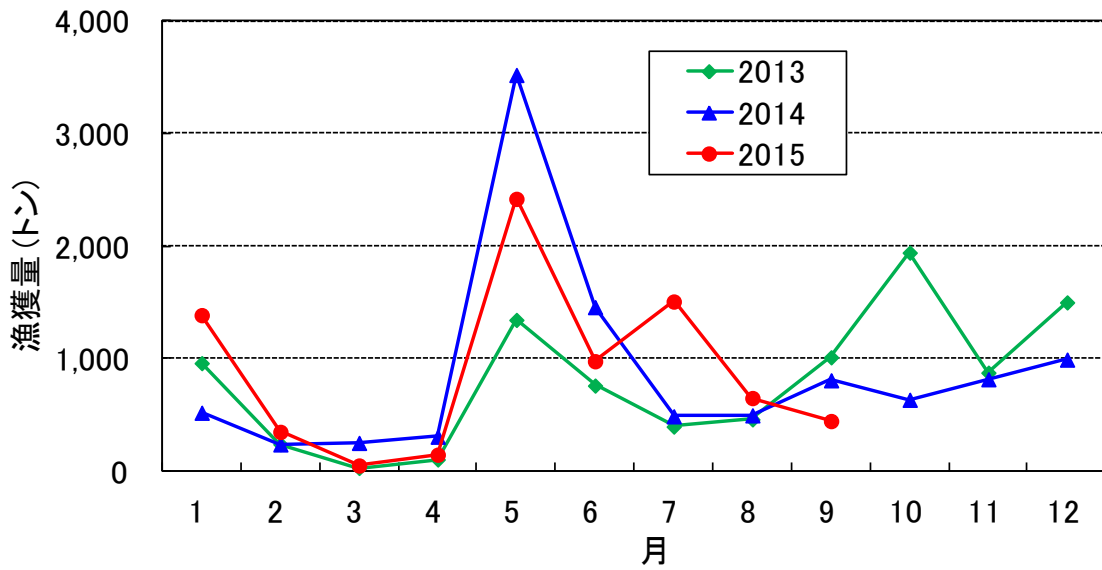


図9 兵庫県～新潟県におけるブリの定置網月別漁獲量
(2013年～2015年、2015年は9月まで)

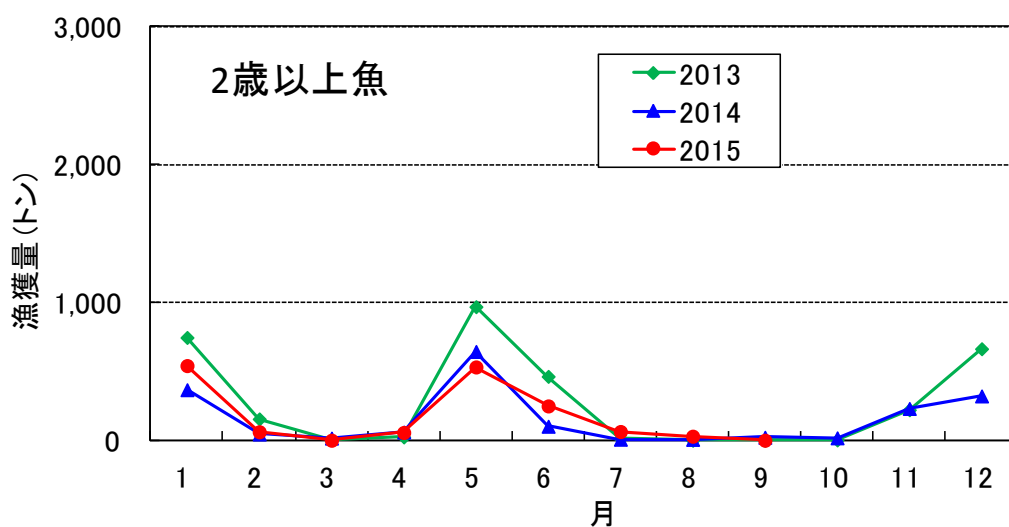
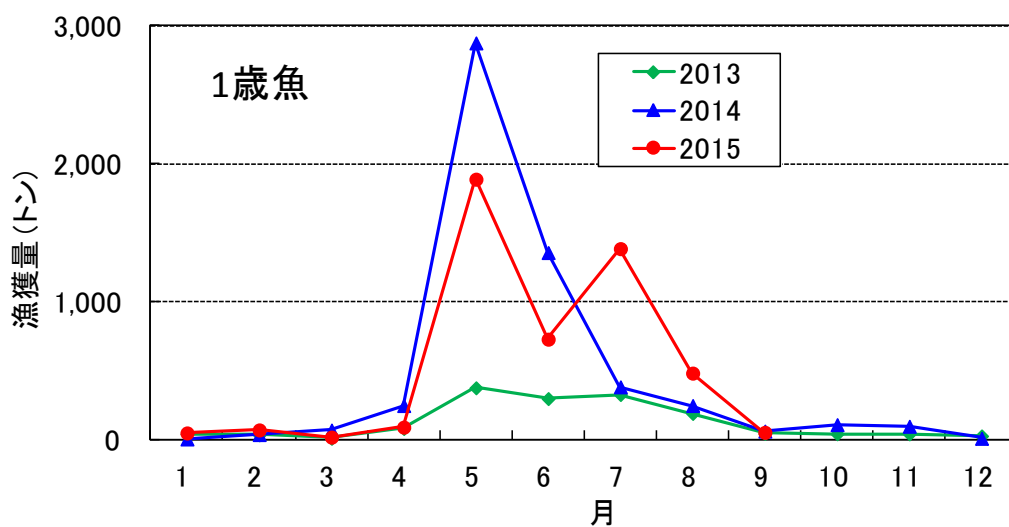
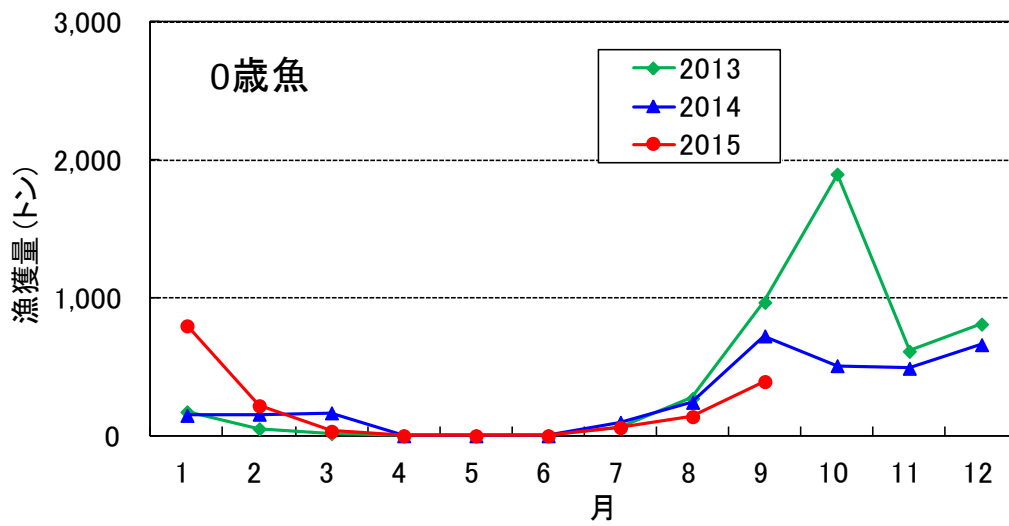


図10 兵庫県～新潟県におけるブリの定置網の年齢別月別漁獲量
(2013年～2015年、2015年は9月まで)

参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	国立研究開発法人 水産総合研究センター 西海区水産研究所
石川県水産総合センター	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所
福井県水産試験場	
京都府農林水産技術センター 海洋センター	